

研修報告書No. 3

県外病院研修医

2週間の地域医療の研修を高知県の最南端に位置する□□市にある〇〇病院でさせていただきました。私が勤務している◇◇病院も△△県の最西端に位置しており、◎〇市周辺と比較すると高齢化が進んでいる地域である。周辺に急性期病院がなく、交通網も発達しておらず、来院が大変な方が多く、より専門的な医療を受けるために1時間近くかけ◎〇市内や〇〇市内など遠方へ受診される方も大勢おられるのが現状である。それに比べ、〇〇病院では高知市内まで2時間半ほどかかってしまい、最寄りの急性期病院まででさえ1時間もかかってしまうという現状に驚いた。実際に救急搬送に付き添いさせていただきましたが、細い山道が続き、なかなかハードなものであった。また、常勤の医師が自分の専門外の分野以外も幅広く診ているということにも驚いた。お話をお聞きすると、どの先生方も以前までは急性期病院で勤務されており自分の専門科の中でもスペシャリティーをもっているとのことだった。自分のスペシャリティーを持ちながらも、高齢者に多い循環器科や整形外科領域をはじめ皮膚科や耳鼻咽喉科など様々な領域も、非常勤の医師の診察日にコンサルトするまでつなぐそうだ。本来は専門医が対応すべき状態であっても、全員が全員、1時間かけて山道を搬送することは現実的ではない。

私が今回の研修で、地域医療とはその地域の人に合わせた医療を提供するものだと学べた。その地域の人が求める医療は、ガイドライン通りであったり、最新の医療であったりではないことを感じた。いつも診てくれている医師に診てもらい、家族がすぐ見舞いに来てくれるようなできるだけ近くの病院でできる範囲で対応してもらおうことではないかと感じた。ただ専門外の疾患を、急性期病院へ転院させるべきか、このまま地域でみるべきかの判断力が求められる厳しさを肌で感じる事ができた。

そもそも医療とは地域医療に限らず、患者が求めているものを提供すべきだが、日々の診療ではどうしても医学的に正しい事をしなければいけないという考えに縛られることがあり、自分の責任のことを考えてしまい、検査や治療をどんどん行ってしまいがちである気がする。今回の地域医療では思い出させてくれる機会にもなった。今後、日本ではどの地域でも高齢者が増えていく一方である。高齢者の医療に関しても同様のことがいえ、医学的に正しいことを若い人と同様に行うことが正しいとは思えない。その判断や決断を地域では迫られることも多いようだった。今後、地域に限ったことではなくなると思われる。

また今回渭南病院で研修をさせていただいて、患者だけではなく地域の町の人たちとも交流する機会があったことも印象に残っている。町の人から昔の町の話の話を聞いたり、おいしい魚の話を聞け、楽しい時間を過ごすことができた。先生方をはじめ、病院のスタ

ツの方々と町の方々の距離が近いことが地域医療の魅力と感じた。

〇〇病院の先生方をはじめスタッフの方々には、病床を効率良く回すため急性期病棟、地域包括病棟、医療病棟と分けていることや、病院の中で病棟を移動させることの利点や、また病床が潤滑に回らないことや、施設へなかなか入居が進まないことなど教えていただいた。介護と医療を別々に扱うことはできなくなっているが、現場ではなかなか進んでいないそうだった。急性期病院しか知らない私には普段なかなか考える機会がなかった問題であったため、勉強になった。四国の西南端で地域医療の問題に立ち向かっている先生方やメディカルスタッフの方と会うことができ、刺激を受け貴重な経験をすることができた。